2022 年度分科会報告

周産期医療分科会・SIG Perinatal Telemedicine

分科会長　小笠原　敏浩
岩手県立二戸病院

１．活動の目的

医療現場において、実用可能な ICT が開発され、近年、遠隔医療と電子カルテネットワークはめざましい変貌を遂げてきた。その中で、周産期医療分科会は、周産期医療での ICT 応用について、国内における最新状況の調査および国際普及を試みることを目的として活動を行う。

産婦人科・産科医の減少傾向は著しく、深刻な問題となっている昨今、周産期医療を安定的に提供するために求められている遠隔周産期医療や、救急搬送時における胎児モニタリング ICT の利活用を国内外で展開する為の議論を進める。

さらに、妊婦及び胎児の遠隔医療の推進およびクラウド型胎児心拍計の実用例や効果測定を行う。

２．分科会メンバー数　　13 人

３．令和 4（2022）年度の活動内容と成果

少子化により、頻度の少ない疾患の診療機会が減少する。その診療レベルを維持するために、遠隔教育研修を行った。新興感染症等で対面の研修ができない状況下ではオンラインによる研修で診療レベルを維持する。出生後の呼吸障害・先天性疾患の周産期センターへの救急搬送トリアージについて、従来の電話によるトリアージは情報の限界があるため、ビデオ通話を積極的に利用。

日本遠隔医療学会学術大会において、周産期分科会（座長　小笠原敏浩先生）の開催を行なった。本分科会では、「新型コロナ感染症在宅療養妊婦における遠隔胎児心拍モニタリングの活用」「ZOOM を活用した胎児心エコーのトレーニング、支援」「小型モバイル CTG によるリアルタイムモニタリングの臨床応用～母体搬送例での実証研究に関する中間報告～」「iCTG®を活用した切迫早産妊娠に対する在宅管理の取り組み」「IoT 胎児心拍モニターiCTG®を中心とした北海道後志地方における周産期遠隔医療の実証事業報告と課題の検討」「ICT とともに歩んだ離島の産科医療の 10 年の軌跡」が発表された。

４．令和 5（2023）年度の活動の目標と計画

これまでの活動をとおして、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から遠隔胎児心拍数モニタリング iCTG®は国内に普及しつつある。しかし、セントラルモニタリングシステムとの連携基盤が整理されていないまま iCTG® が普及しているため、今後は、母体胎児救急搬送の利用も含めて連携基盤整備の普及に努力していきたい。

また、少子化により、頻度の少ない疾患の診察機会の減少が課題となる。その為、その診療レベルを維持するために、遠隔教育研修の普及を引き続き行いたい。

分科会長連絡先：guskobudri@icloud.com　ogasawaramaster@gmail.com